

山梨市牧丘地区

糖度上がり、みずみずしさも

こがらしぶどう、出荷始まる



ぶどう部会の渡辺部長（右）と
菊池典雄副部長

【山梨】「巨峰」の里として有名な山梨市牧丘地区。同地区のブドウの露地栽培は9月下旬までだが、約2カ月遅らせた

11月下旬から「こがらしぶどう」の出荷が始まる。「こがらしぶどう」は標高600～700メートルの南面傾斜という遅場産地

の特性を活かし、木枯らし1号が吹き始めるころに収穫・出荷する巨峰・シャインマスカットのことで、管轄するJAフルーツ山梨が2018年に商標登録したブランドブドウだ。

栽培期間を通して雨よけ施設を利用し品質や外観を維持するとともに、栽培期間を長くすることで糖度が上がり、みずみずしさが味わえる仕上がりになるという。

同JAの長沼広指導員は「今年は約10トの出荷を見込んでいる。こがらしぶどうのブランドをさらに発展させるため、生産者とともに技術を磨いていきたい」と話す。

また、同JAこがらしぶどう部会の渡辺正美部長は「木枯らしの吹く師走に、甘くみずみずしい『こがらしぶどう』を多くの人に食べてもらえるよう、仲間を増やして生産を拡大していきたい」と力強く語った。

全国農業

NATIONAL AGRICULTURAL NEWS
新聞

東日本版

2023年（令和5年）

11月24日 金曜日
月4回金曜日発行